天王寺七坂における坂道景観に関する研究

現代システム科学域・環境システム学類・環境共生科学課程
雪榕容（下村ゼミ）

1, 研究目的　上町台地に位置する天王寺七坂は、地形起伏や緑の少ない大阪都心部にあって、変化のある景観を創出するとともに南北軸を構成する貴重な緑資源となっている。本研究では、天王寺七坂を対象に、沿道の物的環境を探るとともに、景観写真の景観構成要素を用いて景観特性を捉えるとともに、緑の出現タイプを把握することにより、良好な坂道景観特性を解明し、今後の景観保全のあり方について探ることを目的とした。

2, 研究方法　本研究では、天王寺七坂とその周辺を調査対象として設定した。文献・資料調査および空中写真を用いて、坂道の延長距離、標高と傾斜度、周辺土地利用、景観資源分布、沿道建物用途と階数、緑の分布、法規制状況から物的環境特性を捉えた。次いで、各坂 4 景（①坂下から仰観・②途中から仰観・③途中から俯瞰・④坂上から俯瞰）、合計 28 景を調査対象景として、R.1 年 9 月～11 月に写真撮影した。解析では、28 景に対して、写真画像内における各景観構成要素の画面構成率を計測した。この画面構成率データを用いて数量化Ⅲ類を適用し、景観特性を把握した。さらに、緑景観に着目し、緑の出現状況を 7 タイプに分けて捉えて、緑の視覚的特性を把握した（図１）。

3, 調査結果および考察　**【物的環境特性】**天王寺七坂（真言坂、源聖寺坂、口縄坂、愛染坂、清水坂、天神坂、逢坂）は、上町台地の西斜面に位置し、標高約 5m～20m、高低差約 15m で、傾斜度は約 2°～15°となっている。周辺土地利用は、寺院、神社、公共施設に加え、近年ではマンションが立地してきている。景観資源分布状況としては、生國魂神社、一心寺等の神社仏閣といった文化的資源が台地に沿って南北方向に多数存在している。**【景観特性】**景観構成要素の画面構成率を用いた数量化Ⅲ類分析の結果から、X 軸を「風情あり-風情なし」、Y 軸を「緑豊かな-緑に乏しい」と判断した（図２）。No.1 真言坂は、延長距離 70m と短い直線のスロープであるため、4 景全て第一象限に分布し、景観の変化が少なく、統一感があるといえる。しかし、植栽の存在感が弱く、建築物が密集し、車両や広告物が目立ち、かつての風情が喪失した景である。沿道には高層マンションが立地しているため、他の坂に比べ閉鎖感を非常に感じる坂である。緑の出現タイプは集中型が 2 景であり、自然物の平均占有率も低い。No.2 源聖寺坂は、145m と長く、折

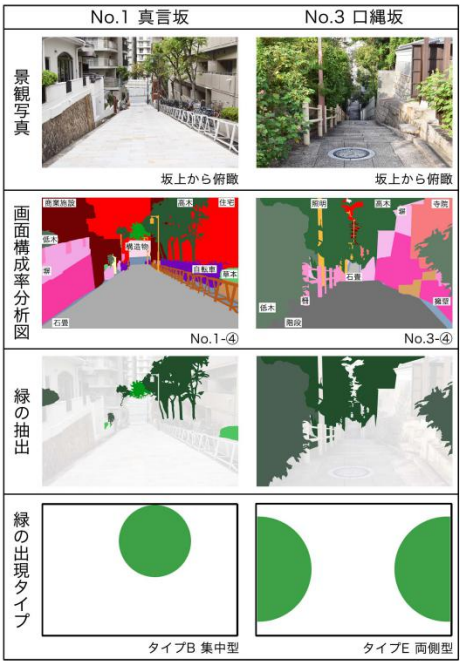

図1　画面構成率と緑の出現タイプ

れ曲がりが 2 箇所あるため、景観の変化が際立っている。中間部にマンションが立地するため、途中からの俯瞰景と仰観景ともに緑と風情がやや欠如するが、上り口からの仰観景では緑豊かであり、下り口の俯瞰景の緑は少ないが風情に富んでいる。緑の出現タイプは集中型が 2 景と多いが、No. 2-①（両側型）では多くの緑が視認できる。No. 3 口縄坂は 130m と長く、下部が緩やかなスロープで、上部が急な階段であるため、景観の変化が著しい坂である。上り口に商業施設が立地するため、坂下からの景を除き、全体的には緑と風情に満ちている。緑の出現タイプについては、両側型が 2 景と多いが、緑の溢れる天蓋型も 1 景存在する。No. 4 愛染坂は 110m で、僅かに曲がっているため、景観の変化がやや感じられる。沿道が大江神社と大阪星光学院中・高等学校であるため、全体的には緑に囲まれた閑静な坂であり、かつての雰囲気が継承されている。緑の出現タイプは片側型が 3 景と多いが、これは学校側の塀が高いため緑を視認できないものの、神社境内の緑が多く視認できることによるものである。No. 5 清水坂は 70m と短い直線の石段状の坂であり、全体が同じ雰囲気で統一されている。寺院と学校が沿道に立地するため、建築物、広告物、設置物などがほとんど見られず、擁壁・塀や石畳・石段の占有率が非常に高い。緑がやや欠いているが、かつてののどかな景観が継承されている。緑の出現タイプは統一感がなく、坂の下部には上部より多くの植栽が存在している。No. 6 天神坂は 133m と長く、興善寺と安居神社が坂の下部に立地し、中間部と上部に沿道建物の 9 割以上がマンションであるため、景観の変化が多い。坂の下部では緑が非常に豊かで、上部では緑の量が減少しているが、風情は残されている。緑の出現タイプでは 3 景が両側型であり、緑の平均占有率が高い。No. 7 逢坂は 330m と、天王寺七坂の中で最も長く広幅員の坂である。道路の改修工事により、かつての面影は全く消失してしまっている。3 寺院が沿道に立地するため、緑量は一定確保されているが、建築物の密集感が強く、賑わいに満ちた都市街路景観となっている。緑の出現タイプについては、分散型が 2 景と多く、それらは沿道の街路樹と寺院境内の植栽である。

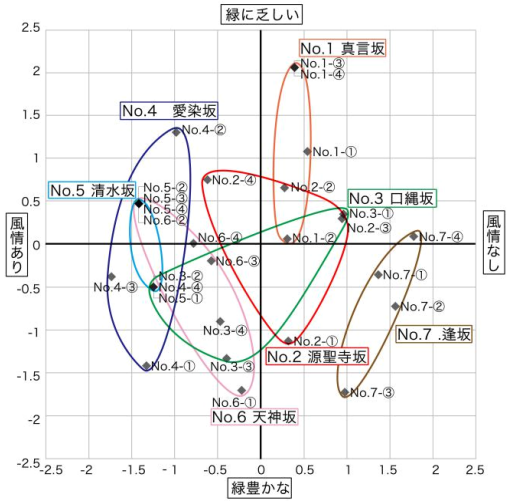

図2 景観構成要素による坂道景観の類型化（数量化Ⅲ類）

4, まとめ　天王寺七坂は、上町台地西斜面に立地する緑豊かで風情のある坂道であった。今でも、口縄坂、愛染坂、清水坂ではその風情が継承されており、源聖寺坂、天神坂では、一部マンション立地も見られるものの、総じてかつての景観が継承されている。しかし、真言坂や逢坂のように沿道が都市化され、著しく景観が変容している坂も存在する。両坂は、風致地区の指定から外れた地域であり、緑や景観保全に法的制度の必要性を痛感する。今後は、坂道沿道における屋外広告物の規制や、沿道敷地での建て替えや新築の際には、接道部での植栽の確保や、かつての風情を継承するような素材や色彩への配慮が不可欠である。